

世界を目指す少年のオリエン修行

スキー〇とフット〇の修行

渡辺 幸
武石雄市

全日本高等学校オリエンテーリング選手権大会 ・ 京葉OLC山武大会

スキーオリエンテーリング好きな中学生がいる。インターハイのM Jクラスに参加して、スキー〇地図との違いを発見した。京葉山武大会で歩測の重要性をはじめてわかった。

思わぬ雪に感謝

武石雄市

モスクワから帰国早々、ある団体の重要イベントを滞りなく片付けた。

暖冬で今年もクロカンコースもお終いかと思っているところに、この時期にしては珍しい雪が降った。

インターネットでは雪を求めてまだまだトレーニングしているスキー〇仲間のメールが見える。

折角の雪を、指をくわえて見過ごす事はない。早速、春休みになった幸(孫)と家内を誘い裏磐梯に車を走らせた。

幸は最近インフルエンザに罹患し、学校も欠席した病み上がりの体だったが、風邪にはなかなか罹らない爺々は「食事を十分とってトレーニングで汗を流すと風邪は吹っ飛ばぞ!」とか何とか言って、裏磐梯についてとたんにコースに入った。

コースは降雪があったのでトラックは整備されているが、利用者はほんの十人程度だ。それなのにお馴染みの羽鳥一家やスキー〇仲間が数人闊トレしている。まったく持ってうれしくなっちゃいます。

幸と爺々は十数年ぶりにスキーをするおばあさん(家内)を見捨てて、3kmコースで足慣らしする。

身長が伸びた幸のスキー板は短くなったようだ。爺々のスペア板とポールに履き替えた幸は、病み上がりで体の切れはいまいちだが長さには十分対応している。一日目は2時間ほどで切り上げた。

2日目はインターバルトレーニング。1kコースで初回にタイム計測し、MAXの90% - 60"を15本実施した。

インターバルが初めての幸は、後半指定タイムより数秒延びたが予定をこなした。

その後、桧原湖までファルトレーク、休暇村の露天風呂に浸かった後、佐々木パン工房で食事、春の思わぬ雪に感謝して爺々と孫の合宿は終了した。

スキー〇トラックとフット〇小道の分岐

渡辺 幸

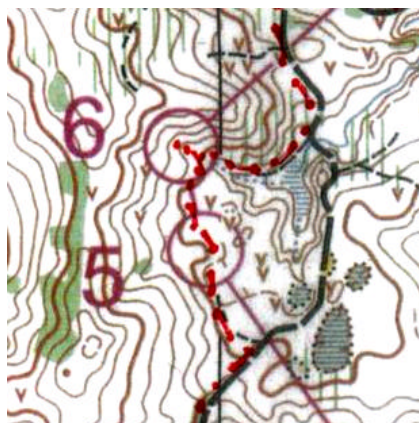
僕は3月25日のインターハイM Jクラスに参加しました。

M Jクラスのコースは道を守るように組まれていましたが、さすがにコントロールは明瞭な道にあることは無く、地図を読み少しコンパスも使わなければならないものでした。



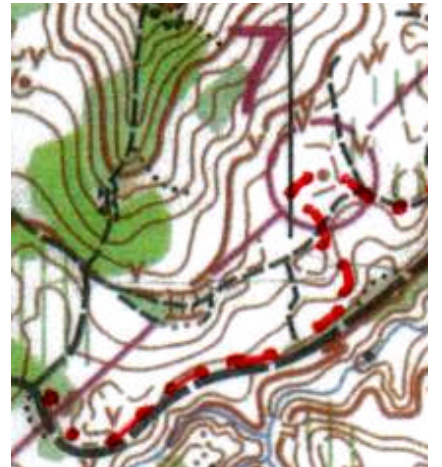
のルートは、爺々から道に出たとき距離が短い小径を考えなかったかと言われた。それとも小径の分岐が判らなかったか、と、聞かれた。

僕は、小径の分岐も見えたし道を通ると距離が100m長い事も分かっていて登りのコンターが混んでいたのではじめから走れる道のルートを決めていた。のコントロールがある尾根は手前の沢を過ぎたらすぐ見えた。



は小径の分岐をたどって進み、小径の延長線上にはっきりした尾根が読み取れたのでその通り進んだ。

は少し登り気味にコンタリングするつもりでしたが、コントロールの下の沢に出たとき全然登ってない事が分かった。地形を見てこの沢に間違いないと思い少し登ったらコントロールフラッグが見えた。



ここまでほぼ順調に来たのにに行く小道が分からなくなった。道の左側に広い沢が出てきたので小道は過ぎていると思って登って行き、小道を横切ってコントロールのこぶを見つけた。僕はここで2分くらいミスしたと思います。

後で爺々から教えてもらいましたが、地図をよく読むと僕が進もうと思っていた小道の分岐は道から少し離れている事が判った。こんな分岐は不明瞭な分岐なので走っていると見逃しし注意が必要だと教えてもらった。その見逃しを防ぐために集中力を切らさないで直近のチェックポイントから歩測をしてミスを防ぐ事が大事な事が分かった。

スキーオリエンテーリングでは歩測も出来ないし、トラックの分岐が吹雪で消えない限り不明瞭な分岐は無い。

この大会でスキー〇には無いとても大事な事を覚えました。

スキー〇の地図を見た事が無い人は、参考に下図(スキー〇地図)のトラックと分岐を見てください。



トラックの実線は幅員2m以上、破線は幅員1~2m。

Mクラスの成績 (参加者 41名)

1 野本圭介	0:23:47	麻布
2 鈴木 周	0:27:46	東海
3 近藤康満	0:28:43	東海
4 二見浩司	0:28:50	桐朋
5 山田晋太郎	0:28:58	東海
6 渡辺 幸	0:29:22	米沢

僕は、6位だった。5位までの人たちが2・3年生だし、学校のクラブで部活していると聞けば、順当な結果かと思うが、タイムを見ると1位の野本さんはぶっちぎりだが、特に3~6位の4人は40秒の中にいるではないか!

僕にとってはのロスタイムが痛い。

京葉 山武大会

渡辺 幸

僕は友人の東野基生を誘って千葉県京葉クラブ創立30周年記念山武大会のM20Aクラスに挑戦した。



歩測を練習する 渡辺 幸 (M13)

M15AクラスがあるのにM20Aに出たのは、爺々のすすめもあり僕もスキーO大会では大人のクラスに出ているのでそんなに難しくは考えなかった。むしろ、フットOで高校生や大学生の力の差を知る良い機会だと思ったからです。僕たちは中学1年(13歳)で20歳の兄さんたちと同じ土俵で戦うという無茶で恐ろしい事をしようとしているのだ。

1日目のスプリントは予選と決勝があって予選で20位までがAファイナルレースを走れる事になっていた。

僕たちは会場に着く前に、九十九里の砂浜で爺々から歩測の方法を教えてもらって、舗装道路や砂地を何回も走って自分の歩測距離を覚えた。基生君は僕より身長も大きく歩く歩幅は広いのに歩測で走ると僕のほうが100mの歩数が少ない事がわかった。

基生はスプリント予選の2番スタートだ。



基生は僕がスタートする前にゴールしたが、ペナになったといってしょげている。バックアップラベルも通過痕跡がない。そもそもバックアップラベルの事も良く分からなかったらしくて爺々から説明を受けて納得していた。

予選のコースは大きなミスもなく速報で9位になってAファイナルを走れる事になった。一番びっくりし、一番喜んでいるのは爺々だった。

決勝のテレインはスタート位置から南半分で海岸の砂山にも出るが茨のある植生の悪いところが所々にあった。短パンを許してくれなかった事が良く分かった。

僕は爺々が口うるさく言っていた「スプリントはスタートと同時にトップスピードだ!」を思い出し、皆が見ているスタート直後の右カーブを勢いよく曲がって走った。



までそれなりに順調に来たがに向かう時、なぜかコンパスを振らないでラフに走ってしまった。歩測をしていたので大きくオーバーはしなかったがマップを見るとのコントロール地形とは明らかに違う。のコントロール付近は確かだが、から距離も遠くないしアップもないし当ても無くウロウロ回るよりに戻り改めてコンパスを振って確かめる事に決心した。

マップにコンパスを当ての方向を慎重に確かめると、先ほどよりやや右(北)寄りになる事になった。このロス時間は約5分だろうか?

フィニッシュでは爺々がカメラを構えていまや遅しと待っていた。



写真は太平洋の地平線が見える砂浜からフィニッシュに向かう幸

結果は当然のように20位だったが、このレースはとても良い経験になった。

二日目はさんぶの森でロング。僕たちはやはりM20Aに出た。

昨日のテレインと違っていつもと同じような山や森が見えたので少し気分的に楽になった。

レースは僕も基生も同じコントロールで少しのミスはあったが、順位は幸が26位と基生32位、M20Aに挑戦した二日間は新しい技術も教えてもらってとても楽しかった。



展望台の広場を駆け回る子供たち

爺々の独り言:

「門前の小僧、習わぬ経を読むというが年齢の成長に合わせた教育は大切だ」

「習うより慣れるの前段階として正しい事を正確に伝授する事」

「地図とテレインに対応できる能力と体力の養成が必要だ」

(武石雄市 M70)